

第13回 釜石市新市庁舎建設検討委員会議事録

日 時 令和4年6月28日（火） 14時58分から16時50分

場 所 釜石情報交流センター多目的集会所（釜石PIT）

議 題 議案第1号 委員長及び副委員長の選任について
議案第2号 新市庁舎建設に係る津波浸水想定への対応について
議案第3号 その他

出 席 者 《委 員》

石垣委員、柏木委員、柏舘委員、川崎委員、菊池委員、佐久間委員、
佐々木（耕）委員、澤田（龍）委員、澤田（政）委員、柴田委員、畠委員、
矢浦委員、山崎委員

《事務局》

野田市長、晴山副市長、佐々木総務企画部長、藤井室長、洞補佐、昆主事

欠 席 者 《委 員》 佐々木（光）委員

《アドバイザー》 南 正昭 岩手大学理工学部教授

協 議 結 果 委員長、副委員長の選任については、立候補が無かったことから、事務局より、委員長に澤田龍明委員、副委員長に柴田渥委員を推薦し全委員より承認をいただいた。

岩手県が公表した最大津波浸水想定への対応について、事務局より説明をしたが、明確に市の方針を示すべきとの意見があり、近日中に改めて開催することとした。

市 長 挨 拶 皆様大変ご多忙のところ、第13回新市庁舎建設検討委員会に、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

まず、冒頭でお詫びしなければなりません。元市職員2名が、住民基本台帳を持ち出して、自宅のパソコンに入れたという案件がございました。外部に持ち出したというところは確認されておりませんが、こういった事態に至ったということについて、改めてお詫び申し上げさせていただきたいと思います。現在、副市長を中心に調査委員会を立ち上げて、全体の関連、あるいは情報セキュリティの今後のあり方などについて、まとめているところでございます。

今日は、新市庁舎建設検討委員会ということで、前回は県が出したシミュレーションの説明でした。震災10年目に、国が防波堤、防潮堤が壊れたときのシミュレーションにおいて避難のあり方を考えてくださいと。津波シミュレーションは2つあって、1つは日本海溝・

千島海溝、もう1つは、3月に岩手県が公表したもので、これは岩手県において、過去に起きた地震津波の中で、一番大きいもので、防波堤、防潮堤が壊れた場合、しかも満潮時ということで、最悪のシミュレーションということで公表されたものでございます。現在、市内各所で、この説明会を開催しているところでございます。

10年前は東日本大震災の経験を生かして、防波堤、防潮堤を造り、乗り越えた時を考え、浸水するところは危険区域として、家を建てず人は住まないようにしよう、工場、あるいは公園とし、人が住むところは高台にして、シミュレーションで浸水しない高さに造るということで、10年前、復興計画を作って進めてきた訳です。これは国の方向性の中で進めてきたものです。

今回、新たなシミュレーションが公表されましたが、10年前と比較すると、大分、浸水高が違っており、防波堤・防潮堤をもう一度造り直すのかという問題が出てきます。あるいは、今まで宅地造成して住んでいた方々も、津波のシミュレーションで浸水区域に入りますから、またそれを嵩上げするのかということも出てきます。しかし、今回のシミュレーションは土地利用には関わらない、あくまでも人命を守ると、避難をするためだと。こういう方針です。10年前とは基本的な考え方が違うということが、岩手県から出されましたので、市としては、そういう方向で進めているというところでございます。そこをまず、スタートに新しい庁舎の方も進めていただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いしたいと思います。

この検討委員会で、ご意見をいただいた上で、それを踏まえ市議会議員の皆様のご理解をいただき、市政懇談会と各地区に出向いて、市民の皆様のご理解をいただくと。そして次の建設に向けた一步を踏み出す。そのようにしたいと思っております。

いずれも検討委員会の皆様のご意見がスタートになりますので、どうぞ忌憚のないご意見をいただきますこと、よろしくお願い申し上げます。

主な質疑・意見

【委員】 これまで、様々な委員会で議論をしてきたが、当初は鈴子町に決定というところまで行った。しかし消防署の関係があり、市庁舎の、利便性があって道路に面した所が良いというのはその通りだが、消防とはまた違う意味であり、あの場所には消防署を建てて市庁舎は天神町ということとなった。そうした中において設計に入り、予算を投資しながら進めてきたが、今回の公表を受け、現予定地（天神町）における津波シミュレーション対策として、いろいろな方法があると。現在の原設計、建物はそのままとし、津波に関わる周辺の整備において、例えば周囲を防潮堤で囲うとか、様々な案が出ているが、今回のシミュレーションを最終的な課題として、今までやってきたことが変わる可能性はあるのか、釜石市としては、どういう考えで、この案を示されたのか。

【室長】 これまで長年にわたり検討いただいた中で、度々、変更にかかる要素が出ていることについて、本当に皆様にはご足労おかけしたことを、まずはお詫び申し上げます。

これからも、変更要素があるのかということについては、現時点でこれ以外の課題は見えていないところです。市といたしましても、建物（現庁舎）にひびが入ったり、壁も劣化している状況の中で、お客様の安全、職員の安全という観点があり、早急に進めたいところでございまして、この案で皆様のご意見を聞きながら進めさせていただければという状況でございます。

【委員】 行政の方から示された候補地として、旧釜石小学校跡地、鈴子地区、それから上中島、片岸（地盤が低い）この4箇所、行政が示されたデータによると上中島多目的広場が、条件が非常にいいように見受けられる。ただこの場所は購入しなければならない。しかし上中島地区という非常に強い声が聞こえてくる。この辺のところ、市長、個人的な考えでいいのでどのようにお考えか。

【市長】 私の耳にもずいぶん聞こえてきますけれども、本当に、適地、本当に市役所という考えで言えば、本当にいい場所だろうと思います。

しかし、比較してみると、津波だけではなく、洪水という点から見ても必ずしも万全ではないということです。天神町でも上中島町でもリスクはある中で、長年この委員会で議論いただいて、最終的な結論を見立てていただいた訳で、これを全くゼロで、今からどこにするかというのであれば、ここは良いとなる訳ですが、我々はこれまで復興というものを進めながら今日まで来ておりますので、全く白紙の状態で選択するという事にならないと思います。今までの取り組みの中では、鈴子町が市役所の候補地だった訳です。それを取って消防の建設場所に決めたという流れは、震災前から、人口減少が進み、中心街の空洞化が目立ってきた中で、市役所をどこにするかということで、鈴子町というところを、只越町もしくは天神町に建てるべきではないかということになった訳です。その流れの中で、新しい市役所は、東部地区の活性化、空洞化を何とか抑えなければならないという大きな課題の中で、この市役所の意義、位置付けというものがあった訳です。今でもそのことを考えながら、そしてまた津波のシミュレーションを考えながら、総合的な形でこれを検討していくという流れは大事にしていかなければならないと思っております。

私は前回、これまで皆様が考えて一定の結論として、天神町旧釜小跡地という結論については、良いのではないかということでお話しをさせていただきました。しかし、そのことについて説明しないと、多くの方々にご理解できない部分だろうと思います。「何でわざわざ津波が来るところに建てるんだ」という意見を持っている市民は沢山おられるだろうと思いますが、私としては単なる市役所ではなくて、釜石の活性化、あるいは東部地区のこの人命を守るという観点からの、市役所の位置付けというのがあり普通の市役所とはまた違った多様な意味があるということ、是非、理解していただかなければならないと思っております。

【委員】 この提案、少し先走っているのかなと思う。何のために国の発表があって、県の発表があったのかと。質問だが、まず市の方針というのが明文化されていないというところ、方向性

とかはあるけれども、天神町に関してこの複数の案のどれかを選んで建設したいという意思なのか。2つ目だが、今回、県の発表があった訳だが、前提条件が非常に厳しいレベルのものもあると思う。しかし、浸水するという発表があった以上は、それをどう評価するのか。釜石の場合、建設予定地の前には、釜石湾の湾口大防波堤、防潮堤も自立式のものがあり、グリーンベルトもある。例えば、防潮堤が倒れたとしても、そういう3つの防御壁があったらどうなのかというような、市独自で現物を見て検討して、国、県の発表をどう評価するか。それを受け、進め方としてはこうなる、というのが最初だと思うがどうか。

【室 長】 市の意志としては、天神町にて原設計をあまり変更しない案、これが事務局案というところ です。明確にしてないということについては、現段階で皆様からそれに関してご意見をいただいた上で、最終的な決定をしたいというところでした。

県のシミュレーションの評価につきましては、今回のシミュレーションは、あくまでも想定にかかる結果であり、防潮堤の効果はないという形と、あるという形、それらについてどう考えるかというところが、大前提としてあるべきではないのかと考えております。当然のことながら、東日本大震災後、湾口防波堤につきましては、マウンドを前回よりも広げ、更には背後部分を改善し、前回は波により押されて倒れましたが、それを防ぐという構造に改善されています。また防潮堤につきましても、通常は地面の上にコンクリートが乗った重力式と呼ばれるものから、コンクリートの躯体に芯をつけたうえで、更に波が越えてきて前後の土をえぐって倒れるのを防護するためにコンクリートやアスファルト舗装で舗装面を広げて倒れないような対策をしている。陸閘・水門についても同じように配慮がなされているという状況で壊れるというのは、非常に疑問があります。しかし一方で、壊れないとは言いきれない。自然災害に対する畏敬の念を持つという考えでは、津波が来たら防潮堤が全くない状態ではどうなのだろうか、という考え方も妥当なのかもしれないと思っております。これが震災で得た教訓だと思っておりますので、基本的にはそういったものが効果を発揮するという前提ではありますが、災害の状態においては、かけがえのない命を守るということについて、改めて確認すべきと思っております、そういった意味から、両面から使い分けをしながら、情報、内容を確認した上で進めていかなければならないと考えているところです。

【委 員】 岩手県で最大規模の想定を出した訳だが、もっと最大規模と言えば、洪水プラス津波。それぞれ別な事象ですから、雨が降っているときに津波がこないという保証も無い。どこまで何を考えればいいのかということになる。

旧釜石小学校跡地は洪水浸水想定区域の指定は無いとあるが、洪水はこなくても、敷地裏の2つの沢から水が出る。今、岩手県が2箇所ほど対策工事をしているが、沢は他にもある。最近、異常気象になっている中で、洪水と津波を考えなくてはならない。今回、天神町における複数の案が出ているが、対策の主な部分は市役所の敷地、取り付け道路まで考慮したものではなく、市役所の庁舎、庁舎そのものの防御をどうするかということになっている。洪水であっても津波であっても、ここまで水がくれば取り付け道路が使えなくなると思うがそういった部分の対応をどのように考えているのか。

【室 長】 委員の言うとおりに、大雨の時に津波が来ることもあろうかと思えます。そういう最悪の際のリスクという点では、我々としては安全な場所はないと考えているところです。

そうした中で、この複数の案につきまして、庁舎を守るものというところでしたが、土地利用の考え方ですと基本はそれでいくということになります。

ただ一方、3月に公表したシミュレーションでいきますと浸水するというところと、こういった部分でどの程度、庁舎に対する対策すればいいかということは正直悩んでおります。

また、前回お示した資料の中に、この波源となっております東北地方太平洋沖型地震の地震発生確率というものがあり、今後50年以内におきましてもほぼ0%という研究もあります。こうした状況の中でどの程度やればいいのかと、対策を打てばいいかと考えた中で、現時点では建物については何らかの形で改修や考え方の変更を加えていきたいと考えておりますが、道路の周辺部という生活基盤というところの改変までは、やはり土地利用という観点を重視、また、その確率というところを合わせ見て、ソフト的な対策で行うべきではないかと考えたところです。

【委 員】 洪水浸水域といっても河岸の浸食があったり、氾濫流があるというのが資料で示されている。この釜石地区で考えると、浸水しない所はないと思うが、怖いのは鉄砲水だと。土石流が起これば非常に怖いですが、雨量が多くてじわじわと増えていく時は、何とか避難できるし、一気に壊れない限りそう恐ろしいものではないというように考えている。ですので、洪水浸水想定区域の指定は有り無しということは、比較の対象にならないのではないかと思います。

それと、このオフィスレイアウトの写真は導入事例ということですが、ここで本当に職員が執務するのか、出来るのか。新市庁舎として設計、建築が済んでしまって、後から浸水が分かったのであれば仕方がないが、建設前に分かっているのに、ここまでして市役所をここに建設するというのは考えづらい。

【委 員】 この庁舎建設について、建てるということについては賛同してきた中で、環境の整備ということが条件に付してある訳です。

高架橋から西の方、只越地区は浜町のような土盛りをしていない。万が一、少ない量の津波が押し寄せてきても、現在の庁舎の前、あの只越地区は水没してしまう。そうなると、これからも只越、場所前地区には家は建たないと思う。何かの方策をとって、住宅なりお店を建てていただいてまちの振興を図っていただきたい。

このオフィスの事例について、職員1,100人と書いてあるが、40何万の人口を1,100人の職員で賄っているのかどうか。

【室 長】 事例の自治体の人口は49万2000人ほどいる訳ですけれども、釜石市と同様、庁舎1箇所に職員全員が入っている訳ではなく、事例の庁舎というところには1,100人が入っていると。ただ一方で、対人口比の職員数というのは、釜石市は高い状況もあるので、適正規模

にするために、今、人員削減等を行いつつ、デジタルトランスフォーメーション（DX）、こういったものも活用していきながら、そういう人件費削減に努めていくところを考えていきたいと思っております。

【委員】 これまで7年半の間に議論を尽くした結果、天神町ということで決めて、設計は出来上がっておりますし、後は、津波浸水に対し原設計案から複数案が出ておりますが、これについてこの提案を1か所に絞ってくれということなのか。

【室長】 天神町に建てる場合の対策案5つというところを出しております。これについて、ご意見を頂戴出来ればと思っております。ただその前に、場所として、その可否についても、実はかなり疑義が出ているところもございまして、もう決まっているという話がある中で、先程、市長もお話しましたが、市長が意見を言うともうそれで決まりになってしまうので、ということもありますので、ご忌憚のないご意見をいただければと思っております。

【委員】 今まで減災という立場で協議してきたが、それが今回、最大クラスの津波の想定公表、その意味は、人の命を守るために最悪を想定したという意味だと思う。だから場所の問題ではないのではないかと思う。

【委員】 これまで、天神町に建てることとして予算の承認を得て、市長が建てると言えば、もう9月にも建築に向けてスタート出来た。しかし岩手県の浸水発表はもっと大きいかもしれないので、建設を進められるけれどもそれを待っていた。それで今回、発表があり更に大きい浸水想定があったと。これは避難のための想定だというのが、津波が来るのであれば、建物は破壊されるし、人にも影響がある。それを考えると、国の発表、県の発表を踏まえて釜石市が独自に検証するなりして、実証的にはこのぐらいだろうと、あるいは三段の防御施設があるから確信を持って天神町は浸水しないと思うので建設しますと、そのようなことを出すべきだと思う。天神町だとか他の候補地じゃなく、釜石市が国の発表、県の発表を評価して、まず今の建設予定地は天神町な訳ですから、こういう確信を持って建てたいなら建てたいと。確信が持てないなら変更がありうると。そういうことを出すのが、今の段階だと思う。

【室長】 今回の委員会につきましては、この場で決定ということまでは、必ずしも出来ないものだと思っております。色々な考え方を持っている方がいらっしゃる中で、意見を聞きたいというところがございます。

多様なご提案に対するお考えを、それぞれお伺い出来たということでは、次のステップに進めるのかなと思います。これを持ち帰りまして、今度は議員からご意見を伺い、そういったものも含めまして、また次回そういう議論をさせていただければと思っております。

【委員】 この判断は難しいと思う。学者によっても意見が分かれているのは実際そうで、ただ政府の発表として、総合的なものとして、今提示されたものというだけ。その上で、市の職員あるいは市長はじめとした幹部がどう決断するかというのは極めて難しい話なので、それを科学的に正しいと思うから決めるなんていうのは、とても出来ることじゃないと思う。想定される被害について考えて、あとは避難が大事だという、そういう考え方を示して、だから、市はここに決める、ここには建てない、どちらかを選択するんだと。そういう意味で市が方向性を提示してほしいと思う。

【委員】 国、県の新たな浸水想定公表により新市庁舎建設事業が長引いており、遅れたことで、物価上昇により建設費用が前から比べるとかなり上がっていると思う。国、県はそれが分かる訳で、そうであれば、国の補助も上がってくるのではないかと。今の少子高齢化なり人口減少から言って、あるいは産業振興からいっても大変難しい状況になってきているかと思うので、建設予算をあまり増やさないで進める方向が望ましいと思う。

【室長】 次回は市の方針を明確な形で出すようにいたしますので、是非、次回はそれに基づいた議論をお願いできればと思います。

【副市長】 本日は活発なご意見いろいろいただきましてありがとうございます。また、お忙しいところ本当にありがとうございます。事務局の思いが至らず、大変申し訳ございませんでした。次回、市の方針としてはっきりとさせていただいて、それに対して今後ご意見をいただいでいくというやり方で進めてまいりますので、引き続き、皆様の貴重なご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。本日はどうもありがとうございました。

以上